



前田亜矢子 様

37目

前田亜矢子氏、市民後見人受任

苫小牧市の福祉に貢献出来たら

社協の助けになれたら

前田亜矢子

私は、市役所の総合福祉課で成年後見制度の担当をしています。

市民後見人養成講座を受講したきっかけは、今の職場に異動して成年後見支援センター事業を委託する側にあつて、センターではどのような仕事をしているの

市民貢献人

会報

苫小牧市後見支援員等連絡会
発行人：三河敏規
☎38-7291
FAX38-7292

かを知る必要があると感じたからです。

令和2年度2回目の養成講座が土曜日開催だったので受講し、後見支援員登録をして、令和3年9月からこの度、受任した方の後見支援員として活動を始めました。当初は対応が難しい方だと聞いていたため少し不安でしたが、会いに行く度に好物のお菓子を差し入れているおかげか、今のところ良好な関係を築けていると思います。

現在、日本では少子高齢化が急速に進行しており、それに伴って、認知症の高齢者も増加しています。

苫小牧市でも昨年6月に高齢化率が30%を突破し、苫小牧市社協の法人後見受任件数も急激に増えているとのことで、私たち市民後見人の役割は今後、ますます

重要です。なっていきます。

私自身は仕事をしながらの後見活動になりますので今のところは1件だけで一杯ではありませんが、少しでも苫小牧市の福祉に貢献できたら、社協の助けになれたら、という気持ちで都度活動させていただいております。これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。



38人目

福田 正氏、市民後見人受任

成年後見人を

引き受けるにあたって

福田 正

令和二年、第七期養成講座を受講して二年数ヶ月が経ちました。

この度、Mさんの後見人の推薦のご連絡をいただきました。色々抱えている課題はあります。しかし、成年後見という今迄見たことのない世界に触れることは



福田 正様

意義深く、また、やり甲斐のあるものだと考え、お引き受けすることにしました。

さて私自身、下肢に障害があるので、多少は障碍を持つ人の心はつかんでいる心算ですが、業務を進めるにあたり、先ずは被後見人の気持ちをよく理解することと考えています。

意思の疎通を図ることに時間をかけ急がず的確な業務の遂行に励みたいと考えています。川柳をかじり始めて六年が経ちました。後見人を引受けるにあたり、次のとおり拙句を読みました。

13期生

市民後見人養成研修修了

令和5年2月18日（土）令和4年度第2回市民後見人養成講座の修了式が行われました。

1月14日から2月18日までの毎週土曜日、延べ5日、30時間の座学講習と福祉施設での実習を経て全てのカリキュラムを修了されました

この間、厳冬期の最中であって体調管理や転倒のリスクに抗して無事にこの日を迎えられた各位に心から敬意を表します。修了式では、渡邊敏明 苦小牧市社会福祉協議会会長から各人に修了証書が祝意を添えて交付されました。

今回の修了生10名は数えて第13期生となります。

今後は法人後見の後見支援員として概ね1年間の実務研修に移行し、市民後見人として個人受任を目指します。

市民後見人のスタートラインは目前です。各位のご健勝をご祈念申し上げます。



△喜びの第13期生と渡邊敏明会長（右上）

後見人やり甲斐概靴の紐